

(別紙4) 平成 25 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100374		
法人名	株式会社 わかば		
事業所名	グループホームわかばの家福部		
所在地	鳥取県鳥取市福部町湯山1433		
自己評価作成日	平成25年9月24日	評価結果市町村受理日	平成26年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	鳥取県社会福祉協議会		
所在地	鳥取県鳥取市伏野1729-5		
訪問調査日	平成25年11月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数の受け入れで、利用者様を理解し細やかな気配りと、家庭的な雰囲気に対応している。地域の方と交流しながら、楽しんでいただく。
普段の生活・行事等を通じて利用者様同士のなじみの関係作りを勧めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議での地区区長さんの水害に係る意見に端を発し、災害時の避難誘導方法等について施設で検討され、訓練時には地区消防団の方々とも避難誘導について確認されています。夏の大雨の際に建物前の駐車場まで浸水があったことから、水害を想定した訓練を予定されるなど、災害時の備えに力を注いでおられます。
利用者同士の関係づくりや食事の楽しみを増やすため、行事食(ピザやたこ焼き)などの工夫に取り組みられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に掲げ、職員が常に意識できるようにし、実践に努めている。	事業所の理念は食堂に掲示されています。管理者は、カンファレンスや行事を通して理念を反映した支援となるよう職員への働きかけに努めておられます。	職員研修や日常業務等の機会を捉えて、全職員が事業所の理念を理解し、共有化を図る取り組みが必要です。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に加入し、清掃等の行事に参加し交流を持っている。避難訓練の際にも地元消防団の方にも参加していただいている。	自治会に加入されています。地域の方から、畑で採れた作物や公民館で開催された料理教室で作ったパンをいただくこともあります。	利用者が地域とのつながりを持ちながら暮らしていくためにも、事業所から地域への働きかけについて検討されるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の委員と情報の共有を行っており、施設での取り組み等説明を行い情報を公開して、認知症の方・施設への理解・支援の方法をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の会議で活動状況を報告している。そこでいただいた意見を活かしてサービス向上に努めている。利用者の家族の方にも委員として参加していただき、要望・意見をいただきサービス向上に役立っている。	運営推進会議は、区長、民生委員、市担当者、地域包括の職員などで構成され、2か月に1回、公民館で開催されています。行事の案内や避難方法等について話し合いが行われ、意見をサービス向上に活かされています。	利用者の意見や要望等をサービスに反映するための機会として運営推進会議を活用できるよう、利用者の参加について検討されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員であり活動状況報告をきめ細かく報告している。その中で相談、助言をいただいている。	運営やサービスについては運営推進会議で相談する他、制度についての問い合わせ等、日頃から市担当者に関わりを持ち、連携を図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の安全を第一に考えながら、利用者寄り添い、職員の連携、見守り、声かけを行い、身体拘束をしないケアに努めている。また、拘束に関する研修にも積極的に参加している。	職員は社内・外の研修に参加し、身体拘束防止について学んでおられます。玄関は施錠されていませんが、ドアの開閉時にはセンサーにより音が鳴るようになっています。	センサー音に頼らない取組みを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされることがないように、課題が起これば会議等で話し合うようしている。虐待防止の為の研修会にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	わかば全体の研修会の中で学ぶ機会は設けられており、相談・必要性があれば活用できる準備は整っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約内容、重要事項の説明、また、改定等の説明を行い、家族の不安や疑問を尋ね説明している。また、契約後にも疑問点等があれば、安心されるように説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、意見や要望を聞く機会を設けている。また面会時などいつでも話していただけるように心掛けている。また、利用者様にも意見・要望の訴えがないか、個別で支援を行っている。	受診の送迎時や面会時には家族に意見や要望等がないか、意識して声かけをされています。 利用者に担当職員を設け、家族への毎月のたよりでは担当者から手書きで利用者の様子を伝えるなど、利用者や家族等とより近い関係となるよう工夫されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内会議を月1回開催し、職員の意見や提案を聞く機会をもうけ、運営に反映できるように心掛けている。個別での意見交換の機会も設けられている。	連絡ノートや朝夕の申し送り、また月1回の施設内会議で職員からの意見や提案などを聞く機会となっています。 また、管理者は職員が意見や提案がしやすい機会を設けるように努めておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の向上心、やりがいを持って働ける環境づくりに努めているが、給与や職場環境など十分でないことがある。職員からの意見・要望を積極的に聞き入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などの取り組みを、内外ともに積極的に行い、個々で働きながらトレーニングに努めていると思う。個々のスキルアップの為の意識づけを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会は今のところ研修等しかないが、近隣の他施設との交流を深めようと現在協議中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事・不安・要望を聞かせていただき、安心・納得いただけるような支援を行い、良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、これまでの経緯、不安なことについて耳を傾け、安心していただけるように努めている。また、気軽にご相談できるような環境づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ベットや車椅子等の必要性・安全性を考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来ることは積極的にしていただき、共に生活していると感じていただけるように努めている。また、草木などを一緒に育てる事で、共に暮らしているという、共有の気持ちを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や受診の際等に情報交換している。必要に応じて家族に連絡をとったり、面会に来て頂いている。希望の利用者の家族には、メールによる状況報告も定期的に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来ていただける環境にしている。買い物や興味をもっていただけ様な場所に外出支援を行っているが、本人の好きな処や自宅近くなどへの支援は検討しているが、実行に至っていない。	親戚や兄弟の面会等の訪問者があった場合には、また訪問してもらえるよう気持ちのよい出迎えや対応に心がけておられます。	馴染みの人や場についての情報を補充、確認するなど個々に整理し、具体的な外出の支援につなげて行けるよう今後の取り組みに期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮し、定期的に席替えをしコミュニケーションが取りやすいよう努めている。困難な方は職員が間に入り、関わりが持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人・家族の相談の受け入れ準備は整っているが、今の段階では、相談や支援はの要望はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方の希望、意向について日々の会話からくみ取り、把握できるように努めている。本人の訴えには、常に傾聴して安心されるように丁寧に説明を行っている。	担当者を決め、担当者を中心に利用者に寄り添いながら、個別に声かけを頻回に行うように意識し、一人一人の思いや希望、意向について、把握しようと努めておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に伺ったり、日々の会話の中で把握出来るように努めている。また、アセスメントシートを参考に生活歴等の情報を職員同士で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、関わりの中で、状態の変化の気づきや出来事を記録し把握するように努めている。また、職員もミーティング等で話し合い、心身状態の情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・主治医等の意見を反映させた介護計画にて支援をすすめている。また、施設内会議にて本人の現状からより良く暮らすための課題を取り上げ意見交換している。	利用者本人や家族の希望や意向等を踏まえ、職員間での話し合いを経て介護計画を作成されています。介護計画に基づき職員によるモニタリングが行われ、状況の変化に応じ、計画の見直しが3ヶ月毎に行われています。	利用者がより良く暮らせるための介護計画となるよう、利用者本人やご家族にも参加していただけるような取り組みを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた事など個人記録に記入し職員間で情報が共有できるように申し送りや施設内会議にて話し合い、実践や介護計画に反映されるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応できるように取り組んでいる。また、サービスについての疑問・質問には家族に分かりやすく説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域を散歩などして、地元慣れ親しんでいただけるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、往診の際は利用者の身体状態を医師や家族に充分伝えている。受診は家族に対応していただいているが、急な時は職員が対応したり往診していただいている。	かかりつけ医については利用者のほとんどが入所前と同じとなっています。受診には主に家族が対応されていますが、受診状況は家族から聞き取り、ミニカンファレンスで職員にも共有されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的なことは常に看護師と情報交換を行い、状態変化の場合は相談し、受診の必要な判断や助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関と情報交換を行い、情報を共有している。また、ケアカンファレンスで退院後の方向性について話し合っている。また、お見舞いにも行かせていただき、利用者の状態を把握したり、家族の不安な訴えにも安心していただけるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、家族、職員、看護師・主治医と話し合い対応している。また、必要に応じて個別の緊急時マニュアルを作成している。	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の方針を明確に示したものはありません。利用者の状況に応じて、家族や主治医等とも相談、話し合いをした上で、事業所としてできるだけのことをしたいという職員の思いを持って対応をしておられます。	利用者や家族等が不安なく暮らしていけるためにも、事業所としての方針を検討し、明確化されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命救急の講習を受け、急変時の初期対応に必要な手当が行えるよう努めている。急変時に備え職員間で緊急連絡網を作成しており、スムーズに活用出来るように、抜き打ち訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、災害緊急連絡網を作成し掲示している。地区区長・民生委員・地元消防団にも避難訓練に参加していただき、災害時の協力体制を築いている。	夜間の火災も想定した避難訓練を2回開催されています。区長、民生委員のほか、今年から地元消防団の参加のもと、利用者の状況に応じた避難の方法等具体的に検討されています。次回は水害を想定した訓練が予定されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を理解しながら、言葉かけに注意を払うよう努めている。丁寧な言葉使いを常に意識して、ゆっくりと伝わりやすい声の大きさを言葉かけを行っているが、とっさに出る言葉や、馴れ馴れしい言葉使いも稀にみられる。	言葉かけの内容や語調について、利用者の不安を招いたりプライバシーを損ねるものになっていないかを意識しながら支援されています。 個人情報資料は鍵のかかる場所へ保管されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに問いかけをゆっくと、自己決定を待つように努めている。また、自己決定で迷われる場合には、選択肢を少なくして、自己決定しやすいように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送り、日常のリズムをくずさないように、本人の希望を聞きながら意思を尊重した援助を心掛けているが、希望に添えない時も稀にみられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった衣類の着用や、希望の際、出張美容での散髪をしていただいている。 外出の際には、本人の好みの衣類を着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいもの、季節の物を、出来る限り提供できるようにしている。 準備や片付けができる方には、手伝っていただいている。	利用者の希望する食べ物の意向を聞きながら、その都度、メニューに反映されています。 また、食べる機会が少ないピザやたこ焼きなどは行事に取り入れて皆で作製、食事が楽しみなものとなるよう工夫されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量を記録し、その人にあった形態で提供している。水分摂取を好まない方には、好きな飲み物を提供したり、口当たりの良いゼリー状にするなどして、水分量を確保出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食物残渣が残らないように毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。排泄動作では自分で出来る事はしていただき、排泄の自立にむけた支援を行っている。	個別に排泄の記録をし、一人一人のパターンを把握しておられます。排泄の兆候を早く察知し、さりげなく声かけをしてトイレでの排泄を促すなど、一人一人の状況に応じた支援に努めておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理の際には便通に良い食材を使う等の工夫をしている。、水分摂取の記録をとり、水分摂取の少ない方には多く飲んでいただけるように支援している。また、室内運動・散歩等で日中の活動支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中に限られるが、利用者に希望を聞いて入浴していただいている。	入浴は日中の午後の時間帯に限られています。体調により拒否されることもあるが、利用者の希望など考慮しながら入浴介助が行われています。平均すると週に2～3回の入浴となっています。	利用者の生活リズムや意向に沿った個別の入浴支援ができるよう、職員体制の工夫等の取り組みを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望される方には午睡していただいている。起床・離床の際には、声掛けを行い、本人のペースで寝起き出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬時には職員同士で日付けや名前を確認している。また、ミーティングで排便の状況を共有して用量等調節している。頓服の際は十分に注意して服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴のある家事などを積極的にしていただいている。行事活動を盛んに行い、気分転換・喜びある生活を支援している。また、誕生日の方には、お好きな物の召し上がっていただく、外食支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩や日光浴など行い、気分転換をしていただいている。外出支援を増やし、楽しみのある生活を支援している。	天気の良い日には利用者に声かけをして近所を散歩し気分転換を図れるよう支援されています。また、行事として毎月の計画に盛り込んだり、誕生日に出かけたりするなど外出の機会を増やすための取り組みをされています。	利用者一人一人のその日の希望を把握し、家族や地域の方の協力も含めて、希望に沿った外出を支援して行けるよう検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度をもっている方はおられ、外出の際にお花や雑貨を購入される事もあるが、利用者様の中に金銭管理を行い、希望に応じて買い物に出かける等の支援は行われていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて、家族等に電話が掛けられるように支援している。手紙のやり取りもスムーズに行われるように利用者が書いた手紙は職員がポストに投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチン・ダイニングをレイアウトした事で、以前に比べ、居心地の良い空間になった。季節感を感じていただけるように、季節の花を飾ったり、季節の絵を利用者に塗っていた壁に貼っている。また、職員と一緒に毎月手作りカレンダーを作成している。	脱衣所とトイレにはエアコンを設置し、利用者が過ごしやすい環境作りに配慮されています。また、キッチンとダイニングのレイアウトを変更し安全に室内移動ができるよう改善されています。季節の花や近所の方にいただいた果物を飾り、季節感を採り入れておられます。	共用空間が狭く、いろいろな工夫や改善が行われていますが、リビングに相当する空間がないので、利用者が日中くつろげる共用空間の確保について検討されるよう期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が狭く、独りになれたり、思い思いに過ごせる場所はない。席の配置や席替えなどを行い工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や布団など使い慣れたものを使用し、季節に応じて衣類や寝具などの入れ替えを行っている。担当職員は利用者と一緒に整理し、落ち着いた環境づくりに努めている。	タンスや布団、時計などの使い慣れたものや趣味の道具を持ち込まれています。また、事業所の働きかけにより収納棚を設置するなど、利用者の状況に応じてプライバシーにも配慮されるなど、居室内の整理整頓などにも工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札やそれぞれ違う花の絵を飾り、自室と分かるようにしている。入口には暖簾をかけ、プライバシーにも配慮している。共用部分には分かりやすく表示をし、安全に出来るだけ自身で行動できるよう努めている。		

目標達成計画

作成日: 平成 26 年 1 月 29 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員全員が理念の説明を受けておらず、理念の理解に乏しい現状である。 職員全員に意味・目標としての認識を意識してもらい、共有化を図る必要がある。 また、今の利用者の方・今の事業所にあてはまる理念なのかを考え直す必要性もある。	職員全員が理念の意味・内容を理解したうえでチームケアの実行。 職員全員に理解してもらい、理念の共有化・理念意識の浸透を図る。 現事業所に必要性のある理念なのか、職員も含めての理念の見直し。	施設内での会議・カンファレンス前での理念の唱和。 事業所内での分かりやすい場所への理念掲示。上記2項目を踏まえ職員間にて理念の共有化・浸透を図る。入所利用者・地域性・事業所を含め、新しい理念の考案・作成。 全職員への理念の意味・目的の説明。	3ヶ月
2	4	運営推進会議開催場所が地元公民館であるため、委員の皆様が事業所の様子を知る機会が少ない。 利用者様家族の方は委員として、毎回会議参加していただいているが、利用者様の会議出席はこれまで行われていないので、委員の方に利用者様の様子・意見を伺える機会がない。	事業所の様子・入所利用者様の様子を知っていただく為に委員の皆様が事業所訪問の機会を設ける。 また、運営推進会議には利用者様家族の方のみならず、入所利用者の方にも参加していただき、直接委員の皆様と対話できる場面を設ける。	運営推進会議のスケジュールに委員の方の施設訪問の時間を設け、事業所での利用者様の様子を見学していただけるようにする。 利用者様本人・利用者様家族の承諾が得れば、運営推進会議への利用者様参加を検討する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。